一れつ

ようぼく一斉活動日

去る 10 月 29 日、アメリカ伝道庁管内でも各地区にて第一回目のようぼく一斉活動日が開催され、多くのようぼくが参加しました。

天 理 教 ア メ リ カ 伝 道 庁

No.912 NOVEMBER 2023

tenrikyo.com

つらつらせんがく
熟々浅学

― 五感 ―

先月 26 日、本部で秋季大祭が行われました。かぐらづとめ・てをどりの後、真柱様がお言葉を述べてくださいましたので、天理時報、みちのとも、Tenrikyo Online などでお読みいただきたいと思います。

また、10 月 26 日のおはこびにて、アメリカ伝道庁創立 90 周年記念祭の「臨時祭典願」のお許しを頂戴しました。来年 6 月 30 日の記念祭に向けて、管内の教友が一手一つとなって心の成人の道を歩みたいと存じます。どうぞ宜しくお願い致します。

さて、人間には「五感」があります。「視覚」、「聴覚」、「触覚」、「嗅覚」、「味覚」です。これらは親神様がくだされた能力で、私たち人間が生きる上で大切な感覚です。

別席のお話に、

「人間身の内は親神様が日々御守護下されますによって、目でものを見分け、耳で理を聞き分け、鼻でものをかぎ、口でかみわけ、手で働き、足で運ばして貰い、心の思うまゝに自由叶わして貰うのでございます。」

とあります。

「五感」も含めた身体の全機能は、親神様から貸していただいています。それらの機能をどのように使うのかが大切です。「心の思うまゝに自由叶わして貰う」とありますように、どのようにこの「五感」や身体を使うのかは私たち人間に委ねられているのです。

「視覚」は物を見る能力です。つまり「目でものを見分け」ということです。

残念ながら私は近視で、今は年齢を重ねて老眼にもなっています。また、少し細かい文字が二重に見えますので乱視もあります。ですから、眼鏡を掛けていますが、眼鏡を外すと何も見えないのかと言うと、そうではありません。

オスマン・サンコン（Ousmane Sankhon）というギニア共和国（以下、ギニア）生まれで、元外交官、現在はタレント・著述家がいます。ギニアという国がどのような土地柄なのかは知りませんが、地図を見ますとアフリカの西部に位置し、平坦な土地に建国されているようです。

この方がギニアに居た時には視力が 6.0 あったとのこと。私にはとても想像できない視力ですが、6.0 とはどのくらいの視力なのか。

日本での視力検査では、「ランドルト環」という「C」の形をした円形の切れ目を判別する検査をしますが、5m の距離から直径 7.5mm の「C」の切れ目の間隔（1.5mm）の部分を判別できると視力 1.0 とのことです。ですので、単純に計算して、30m の距離からこの切れ目を判別できれば視力 6.0 になります。

この説明ではちょっと実感し難いですが、例えば、パスタのスパゲッティの断面が約 1.5 ㎜とのことですので、30m 離れたところから束ねたスパゲッティの断面部分を一本ずつ見分けることができるということになります（もっと訳が分からなくなったかもしれませんね）。

サンコン氏はそのような視力を持っておられたのですが、東京で仕事を始め、日本に住むようになってから視力が弱くなり、1.2 にまで下がったとのこと。

アフリカには、このような視力の良い人々が多いとのことですが、その中でもタンザニアのハッザ（Hadza）族には視力 11.0 の人がいたとの記録があるようです。

アフリカで狩猟生活をしている人にとっては、遠くにいる動物が狩猟対象なのか、つまり獲物なのか、反対に危険動物、つまり自分を襲う動物なのかを見極めることは大切です。そのため遠くの物を見極める能力が発達したのだろうと考えられています。

しかし、都会ではそのような心配もなく、またパソコンを見たり資料、本を読んだりする時、至近距離から見たり読んだりすることになりますので、必然的に遠くを見る必要がなくなります。そのため近視になりやすいようです。

私も視力が悪くなり始めた時、医者から遠くを見るようにと言われていましたが、それはアフリカの人々と同じ作用を目に与えることだったのだろうと思います。しかし、遺伝的な近眼なので、結局、右目から視力が落ち、その影響で左目も視力が悪くなりました。

「聴覚」について驚いたことがあります。数十年前の話ですが、おぢばに有名な作曲家・指揮者が来られ、その方の通訳をした時があります。その方が奈良市内の大ホールの客席に座って舞台上で練習していた天理高校吹奏楽部を指導されていた時のことです。当時100人ほどの吹奏楽部部員がいましたが、その方は、一人ひとり部員がどのような音を奏でていたのかを聴き分けておられたようなのです。うまく演奏できなかった部員の音も聴こえておられ、その部員に対して「こう演奏したらよい」などと指導されていたのです。その様子を見て、その方の「聴覚」の能力に驚嘆してしまいました。「耳で理を聞き分け」ておられたのではないでしょうが、「音を聞き分け」ておられました。

人間には「指紋」があります。現在ではスマートフォン（スマホ）やパソコンなどで「指紋認証」として使われることもありますが、本来の「指紋」の役割はそのためにないはずです。「指紋」の有無によって紙を捲る枚数を調べる「指紋」に関する研究があり、次のように結果があります。

指紋がないと、指紋があるときに比べて作業効率が著しく落ちることが分かる。指紋の水分と油分が滑り止め機能となって、紙をめくりやすくしていると考えられる。人が細かな作業ができるのも、この指紋があるからだといえる。

大阪教育大学附属天王寺中学校
自由研究〈第43集　2018〉

また、「指紋」には、指先を敏感にさせる機能があるとのこと。つまり、指先には圧力を感じる感覚点と神経が多く集まっていますが、「指紋」があることによって、物を掴んだ時に山の部分だけが凹んで、そのため細かいところまで物の大きさや強さを感じられるとのこと。つまり、「指紋」によって微妙な大きさの違いが分かるようで、「触覚」を敏感にするために「指紋」があると言えるのかもしれません。

私が庁長として着任した時に「アメリカに来た」と感じた瞬間がありました。それは洗濯場での洗剤（どの会社の洗剤なのかは不明）の匂いを嗅いだ時でした。

ご存知だと思いますが、私は高校生の時にアメリカにやって（戻って）来たのですが、最初の２週間ほどは伝道庁で起居させてもらいました。その時、当然のことながら洗濯物を自分で洗っていました。どうもその時に嗅いだ洗剤の匂いが、アメリカで生活を始めた時の私の記憶と強烈に結びついているようで、現在でも私の「アメリカの匂い」はアメリカの「洗剤の匂い」になっているようです。今でも洗剤の匂いを嗅いだ時に、改めてアメリカに居ることを実感することがあります。たぶん、皆さんにも、私同様の経験があるのではないでしょうか。ある匂いを嗅いだ時、過去の記憶が呼び覚まされることがあると思うのです。

「味覚」に関しても、同様のことが起きるのではないかと思います。つまり「お袋の味」という存在です。幼少の頃に母親が作ってくれた料理の味を覚えていて、それが“恋しい”となって、帰省した時に、母親の手料理が食べたくなるという感覚です。

人間の身体にはさまざまな機能が存在していますが、ここに挙げただけではなく、まだまだ身体の機能について分からないことが多く、全ての機能について理解することはできないかもしれませんが、親神様から与えられている「視覚」、「聴覚」、「触覚」、「嗅覚」、「味覚」の「五感」をどのように使うのかが大切です。親神様は「人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたい」と、この世界と人間をご創造されたのですから、五感を含め、「かしもの」である身体を陽気ぐらしの世界実現のために使うのが本来の使い方だと思うのです。

深谷　洋

参考資料：別席（英訳）

It is thanks to God the Parent’s constant providence that we can enjoy the free use of the body as we wish. We can see with our eyes, listen to the truth with our ears, smell with our nose, bite and chew food with our mouth, work with our hands, and walk with our legs.

立教186年秋季大祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長深谷洋慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつをたすけたいとの親心から、天保九年十月二十六日、宿し込みのいんねんある元の屋敷に天降られて、教祖をやしろとして、この世の表にお現れくだされ、よろづ委細の元の理を明かし、つとめを教え、たすけ一条の道をお啓きくださいました。爾来、果てしなき親心と尽きせぬ御守護により、神直々のだめの御教えは世界に伸び広がり、このアメリカ、カナダの地にも、教祖のひながたを仰ぎ尊び、たすけの御用に励む者をお与えいただき、今日の道の栄えをお見せいただいておりますことは、誠に有難く勿体ない限りでございます。私共は、教祖のお働きを頼りに、御恩報じを念じて、日々心勇んでつとめさせていただいております。その中にもこの月は、立教の元一日の縁の月に当たりますので、只今より、ぢばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、立教の元一日の親神様の御心を心に湛えて、喜び心と共に、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の秋の大祭を執り行わせていただきます。

御前には、今日の日を待ちわびて寄り集いましたよふぼく、信者一同が同じ思いで伏し拝み、日頃の御高恩に御礼申し上げ、一層の心の成人をお誓い申し上げ、尚も変わらぬ御守護にお縋りしたいと、お歌を唱和する真実の状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は本部秋季大祭参拝のために、管内より教会長始め、多くのよふぼく、信者が帰参しますが、道中無事にお連れ通りいただき、ぢばの理を頂戴してそれぞれの土地所に戻りましてからは、勇んで道の御用をつとめられますようお願い申し上げます。

私共は、真柱様が昨年のこの月に御発布くだされた諭達第四号の思召を心に治め、よふぼくとしての自覚を高めて、世界を治める御教えを広め、また、次世代に道を伝える決心でございます。更には、管内教友が一手一つになって、来年六月三十日に迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭に向けて、成人の道の歩みを進めたいと存じます。何卒、親神様には、私共の誠真実の心定めをもお受け取りくださいまして、願う誠の心通りの自由自在の御守護を賜り、管内はもとより、世界に御教えが広まり、一れつ兄弟姉妹が互いに手を取り合ってたすけ合う陽気づくめの世の状に、一日でも早く立て替わりますようお導きの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

秋季大祭神殿講話

アメリカ伝道庁長
深谷　洋

日々は、道の御用の上に、またアメリカ伝道庁の御用の上に、お励みくださり、誠にご苦労様に存じます。

只今は、結構に、立教186年アメリカ伝道庁秋季大祭を、皆様と賑やかに、そして滞りなく勤め終えることができ、大変嬉しく思っております。

本日の当伝道庁秋季大祭を終えるに当たり、思いますことをお話して、祭典講話に致したいと存じます。暫くの間、お付き合いくださいますようお願い致します。

秋季大祭は、立教の元一日、つまり天保9年10月26日を記念して勤めるのであります。本部では今月26日に秋季大祭が勤められますが、私たちは先程、本部で勤められる「かぐらづとめ」の理を頂戴して勤め終えさせていただいたのであります。

秋季大祭には「世界一れつをたすけたい」という親神様の立教の本旨が込められています。つまり、秋季大祭を勤める時には、ただ単におつとめを勤めるのではなく、立教に込められた親神様の思召を再確認し、そして、その思召に沿った活動を実行することをお誓いするのです。もちろん、お誓いするだけではなく、実行することが大切であります。

教祖は、立教の元一日より月日のやしろとして50年のひながたをお遺しくだされました。そしてその道中で、この世界をたすける方法として、おつとめを教えてくださいました。

そのことを踏まえて、アメリカ伝道庁の創立90周年記念祭に向けての成人目標に「いつも心を込めておつとめをつとめよう！」と定めているのであります。

本日は、伝道庁で勤める大祭、或いは月次祭でのおつとめについて、思いますことを少しお話したいと思います。

昨年、真柱様がご発布くだされた「諭達第四号」に、

「教祖は、月日のやしろとして、親神様の思召をお説き下され、つとめを教えられるとともに、」

（「諭達第四号」、1-2頁）

と仰せられ、

「おつとめで治まりを願い」

（「諭達第四号」、6頁）

と、教祖がおつとめを教えてくだされ、それによって世界の治まりを願うことをご教示くだされています。

また、真柱様は本年の年頭のあいさつに於いて、次のように述べられました。

「おつとめを勤めてご守護を頂くのも、人が話を聞き分けるようになってくれるのも、勤める者の心の成人ということが大き

く関わっていると思う。」
（立教 186 年 2 月号「みちのとも」、6 頁）
と、おつとめを勤める者の心の成人が大切であることを教えてくださいました。
「おふでさき」に、
このつとめなんの事やとをもている
よろづたすけのもよふばかりを　2 号 9
このさきハたん／＼つとめせきこんで
よろづたすけのもよふばかりを　2 号 21
このつとめなにの事やとをもている
せかいをさめてたすけばかりを　4 号 93
このみちをはやくをしへるこのつとめ
せかい一れつ心すまする　7 号 99
にち／＼にはやくつとめをせきこめよ
いかなるなんもみなのがれるで　10 号 19
とのよふなむつかしくなるやまいでも
つとめ一ぢよてみなたすかるで　10 号 20
はや／＼と心そろをてしいかりと
つとめするならせかいをさまる　14 号 92
つとめてもほかの事とわをもうなよ
たすけたいのが一ちよばかりで　16 号 65
とあります。
これらの「おふでさき」にありますおつとめとは「かぐらづとめ」を指していますが、ぢばを囲んで「かぐらづとめ」を勤めて、困っている人々をたすけ、世界を治めさせていただくのであります。
伝道庁で勤めているおつとめは、先程も申しましたように、このぢばでの「かぐらづとめ」の理を受けて勤めているのでありますから、「おふでさき」に示されていることは、私たちにも関係することであります。
そこで、伝道庁でおつとめを勤める者の心構えや、伝道庁の祭典時の参拝者の基本姿勢を確認したいと思うのです。ただ単におつとめを勤めればよい、ただ単に伝道庁に参拝に来ればよいということではないと思うのです。
各教会などでの月次の祭典時でも同様でありますが、伝道庁での祭典の参拝の折には、先ずは、先月より今月の祭典日まで、親神様が日々くださる御守護に対して感謝し、御礼を申し上げることが肝心です。そして、次の祭典日まで無事にお連れ通りいただけるように御守護をお願い申し上げることも大切でありましょう。
また、世界の治まり、世界の人々のたすかりを願うことも大切であります。現在では、東欧での戦争やアフリカの国々での紛争の治まりを願うことも必要でしょうし、更には、さまざまな災害が発生しないように、また災害の被災者の早期救済を願うことも大切でありましょう。つまり、陽気ぐらし世界の早期実現をお願いすることも肝心でありましょう。
個人的な思いを持って、或いは個人的なお願いのために伝道庁の祭典に参拝に来られる方もありましょうが、今申したようなことを申し上げ、願うことも忘れないように、祭典を勤める、参拝することが大切であると思うのです。
さて、来年創立 90 周年を迎えるこの時旬に、私たちはどれだけ真剣におつとめを勤めているかを改めて考えてみたいと思うのです。
先人達は病人を救けるために、身を浄めてから病人の枕元で、1 日に 6 回も 12 下りのおつとめを勤めてお願いをされたというお話があります。その時には、毎回、神棚に供えられた神饌物を取り替えておられました。そして、誰かがおつとめを一手でも間違えれば、おつとめが終わってから、何下り目のどこそこを間違えたが、そこにはどのような理があるのかと話し合い、一同「さんげ」して心定めをし、また病人の家の人にもその理を諭し、再びお願いづとめを勤められたということです。そして、そのようなことが 2 日、3 日と続けられたこともあったようです。
つまり、それだけ真剣に神意を悟りながらおてふり、おつとめを勤められておられたのです。

そのことを思えば、今の私たちはどれだけ真剣におつとめを勤めているのかと、反省するばかりです。

ただ単に手を振ればよい、間違えないように鳴物を勤めればよいというだけではいけません。周囲の人を見ずにおてふりが間違いなく勤められるのは、もちろんのことですが、その先に求めるのは、指先まで、足先まで神経を行き届かせておてふりを勤めることです。つまり、心を込めて勤めているかを、常に意識していることが大切であるという意味です。

稿本天理教教祖伝逸話に「理の歌」(18)に、

「この歌は、理の歌やから、理に合わして踊るのや。

ただ踊るのではない。理を振るのや。」

と、教祖が仰せられています。おてふりの手振りには、親神様の「人間が陽気ぐらしを見て、ともに楽しみたい」、また「世界一れつを救けるために天降った」との思召が込められてあると思うのです。そして、その思召を心に抱（いだ）きながらおてふりを勤めさせていただくことが肝心であると思うのです。

先程も申しましたが、ここでのおつとめは本部の「かぐらづとめ」の理を頂戴して勤めているのであります。

「かぐらづとめ」は、十人の勤め人衆が「かんろだい」を囲んで勤めるおつとめであります。人間創造時の親神様のお働きを手振りに表して勤めるのでありますが、第１節といわれる「あしきはらい」のおつとめでの十人の勤め人衆は、それぞれが親神様の十全の御守護を形に表した手振りをされます。それぞれの手振りは違いますが、心を一つにして勤められておられるのであります。

その理を受けて勤めている伝道庁でのおつとめでありますから、おてふりを勤める者は、一手一つの心になって勤めることが肝心であります。つまり、おてふりを勤めている６人が一手一つになって勤めている

のかを、おてふりを勤める６人一人ひとりが心に留め置いて勤めることが肝心であります。そのためには、おてふりの芯の者に心を合わせて勤めることが大切であります。

鳴物については、音を鳴らせばよいだけではありません。暗譜して間違いなく勤められるようになることはもちろんのことですが、澄み切った音を奏でられるようになることが大切であると思うのです。そのためには澄み切った心になる必要があります。

また、周囲の鳴物との調和が取れているのか、更には、地方、おてふりの人が勤められやすいように鳴物を奏でているのかを、常に意識していることが大切であります。

男鳴物であれば拍子木に合わせることが大切でありますし、女鳴物を勤める者も同様であります。そして、拍子木を勤める者は、地方の声をしっかりと聴きながら、地方のペースに合わせて拍子木を鳴らすことが肝心であります。このようなことをしっかりと意識しつつ、心を込めて鳴物を奏でるのです。

参拝者の皆様には、しっかりと唱和して

いただきたいと思っているのです。おつとめ奉仕者だけが心を込めておつとめを勤めればよいのではなく、祭典に参拝しておられる皆様も、おつとめ奉仕者と共に祈る、願うことが大切であると思うのです。つまり、伝道庁の祭典に参画している全員が、心を一手一つにしておつとめを勤めることが大切であるという意味であります。

日本語の分からない人であっても、たどたどしい日本語であっても、教祖が教えてくださった言葉で唱和していただきたいと、私は思っているのです。何故なら、そこには私たち人間にはまだまだ理解できていない親神様の深い神意が込められている、隠されている、と私は思っているからです。特に、「なむてんりわうのみこと」は、しっかり唱えていただきたいと思っています。

おつとめで世界のたすかりを願うのです。世界が陽気ぐらしとなるように願うのです。

現在、世界中で戦争や紛争が起こっています。また、親神様の深い思召があるとは存じますが、世界中で多くの災害が発生しています。

論達第四号に、

「今日、世の中には、他者への思いやりを欠いた自己主張や、刹那的行動があふれ、人々は、己が力を過信し、我が身思案に流れ、心の闇路をさまよっている。

親神様は、こうした人間の心得違いを知らせようと、身上や事情にしるしを見せられる。頻発する自然災害や疫病の世界的流行も、すべては私たちに心の入れ替えを促される子供可愛い親心の現れであり、てびきである。一れつ兄弟姉妹の自覚に基づき、人々が互いに立て合いたすけ合う、陽気ぐらしの生き方が今こそ求められている。」

（論達第四号、5頁）

とあります。世界中の人々が、陽気ぐらしができるように、親神様の思召を世界中に広めることが私たちの使命です。その使命を成し遂げるための一つの方法として、おつとめを勤めるのであります。「おつとめで治まりを願い」と教えていただきますように、お互いにしっかりとおつとめを勤めたいと存じます。

来年6月30日にアメリカ伝道庁創立90周年記念祭を執り行うことは、皆様はご存知でしょう。それまで約8ヵ月の時間があります。この間、伝道庁創立90周年記念祭の成人目標の一つである「いつも心を込めておつとめをつとめよう！」を意識して実行していただきたいと思い、本日、おつとめを勤める者の心構え、祭典参拝者の心の置き所についてお話しました。

来年の伝道庁創立90周年記念祭では、素晴らしいおつとめを勤めたいと存じます。それは、おつとめ奉仕者、参拝者全員の心が一手一つになり、心が揺さぶられるおつとめを勤めるという意味であります。そこに親神様がお働きくださり、陽気ぐらし世界実現に近づけるのではないかと思うからです。

また、それぞれが所属する教会、布教所、出張所、或いは自宅で、間違いなくおつとめが勤められるように練習し、そして、心を込めておつとめを勤められるようになっていただきたいと思うのです。各教会、各布教所、各出張所、それぞれの自宅で勤められるおつとめでも、親神様に真実の心を受け取ってもらえる、心揺さぶられるおつとめを勤めていただきたいと存じます。

このことをお願いしまして、本日の話を終わりたいと存じます。

ご清聴有難うございました。

伝道庁連絡

秋季大祭

祭　主　　庁長
扈　者　　大西　知　中富淳次郎
賛　者　　伊藤光春　上杉浩司
指図方　　奥井俊彦
神殿講話　庁長（英）

教会・布教所事情

サンフランシスコ教会：任命願、臨時祭典願
おはこび予定：2023 年 10 月 26 日
教会長：田中知義
奉告祭：2023 年 12 月 2 日
綾 LA 布教所：閉所
2023 年 8 月 4 日をもって、当布教所は閉所されました。
パシフィックユニオン布教所：住所変更
住所：2690 Duckhorn Dr. Apt. 1058,
Sacramento, CA 95834
電話番号：(916) 710-5515

TSA 冬季練成会

12 月 26 日（火）～ 29 日（金）に伝道庁にて開催します。内容：講義、HARP 行事、餅つき、スキー／スノーボード。申込みは既に開始しており、締切は 12 月 3 日です。参加者上限は 35 名です。

年末年始行事予定

12 月 26 日（火）の遥拝式後、午後 12 時 30 分より伝道庁年末大掃除を行います。大掃除のお手伝いのできる方は、また、同日の昼食を希望される方は、11 月 30 日（木）までに伝道庁にご連絡下さい。12 月 28 日（木）は餅つきを行う予定ですので、伝道庁近郊の皆さんのひのきしんをお願い致します。また、元旦祭は、1 月 1 日（日）午前 7 時（午前 6 時 40 分より開扉・献饌開始）より執り行いますので、伝道庁近隣在住のおつとめ奉仕者で、おつとめ役割を希望される方は 11 月 30 日（木）までに伝道庁にお知らせください。

修養科英語クラス

修養科英語クラスが来年 3 月末から 3 ヶ月間、おぢばにて開講される予定です。日本国査証の必要な志願者は、査証取得に時間がかかりますので、早々に伝道庁にお知らせください。尚、何らかの理由で修養科英語クラス開講の中止、また査証取得ができない場合がありますので、ご了承ください

全教一斉ひのきしんデー

来年の全教一斉ひのきしんデーの計画を各地区にてお願いいたします。各地区担当者の方への計画書用紙を配布しますので、12 月 26 日までに伝道庁に提出してください

ようぼく一斉活動日

各地区責任者は、第 2 回開催の「計画書」を 2024 年 2 月末までに、書記に提出してください

教会長夫妻おたすけ推進の集い

来年（2024）2 月 17 日（土）午後 2 時より、教祖 140 年祭年祭活動 2 年目にあたり、たすけ一条の歩みを一層進める上から、伝道庁に於いて「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」を開催致します。管内教会長夫妻と庁長が認めた対象者の皆様には、万障繰り合わせの上、出席くださるようお願い致します。尚、対象者には、案内の書面を配布、発送、配信していますので確認してください。

一れつ会特別扶育生募集

2024 年大学入学予定者に対して、「一れつ会特別扶育」の募集をします。締切は 12 月 31 日です。

マウイ島山火事募金

ハワイ州マウイ島への募金は、＄4,400 集まりました。先月末、ハワイ伝道庁長に渡しました。ご支援いただいた方々、誠に有難うございました。

各会連絡

布教委員会

・11 月 18 日「よふぼくの集い」を開催。

教化育成委員会

・TSA 冬季練成会
12 月 26 日（火）～ 29 日（金）於：伝道庁
申込締切は 12 月 3 日　参加上限 35 名
・おやさと練成会事前講習
12 月 28 日（木）～ 30 日（土）の日程で、対面式で開催します。小委員会では、対象者に連絡をとり、参加希望者に申込みのリンクを送っています。
・スリーデーコース
2024 年 2 月 23 日～ 25 日の日程で開催します。申込用紙は今月配布し、締め切りは 2024 年 2 月 18 日です。英語コースは 4 名以上の申込み、スペイン語は 2 名以上の申込みがある場合に開催します。

翻訳委員会

・翻訳会議を 10/31 ～ 11/4 にアメリカ伝道庁にて開催しました。逸話篇 200 話全ての、基礎となる翻訳を終えました

広報委員会

・90 周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。

情報提供先：川上（kamishuyo@hotmail.com）
林（takhayashi@gmail.com）

・祭儀委員会からの要望で、祭典前の祭儀式練習模様の動画を作成中。
・8 月の神殿講話から、伝道庁ホームページで日英両語での視聴ができるようになっています。
・「Stories Inspired by Oyasama」動画が視聴可能になりました。伝道庁ホームページの Resourses → Blog からご視聴ください。右の QR コードからもアクセスできます。

婦人会

・天理教婦人会第 106 回総会
2024 年 4 月 19 日（金）
午前 9 時 30 分　於：本部中庭
記念行事：支部の集い

アメリカ婦人会は、2024 年に創立 70 周年を迎えます。諸先輩方がお通り下さった尊い歩みに感謝し、更なる歩みを親神様、教祖にお誓い申し上げるべく 2023 年、１年をかけて「アメリカ婦人会創立 70 周年記念おぢばがえり」を実施致します。

おぢばへお帰りになられた婦人会員は、是非お名前をお知らせください。

・主任と委員部長との懇談会を進めております。

少年会

・鼓笛隊員募集！道の教友と共に「一手一つ」の鼓笛活動をしませんか？たすけあいや、人のために尽くす喜びを学べる活動を行ってまいります。詳細は少年会委員（moto1884@gmail.com）までご連絡ください
・8 月に開催された縦の伝道講習会の講話のビデオが伝道庁ホームページにアップロードされていますので、ご視聴ください。
・少年会員に教祖のお話をしましょう。親子ぐるみで教会に参拝し、ひのきしんをさせていただきましょう。

青年会

・第 97 回天理教青年会総会は 11 月 25 日（土）午前 11 時より教会本部で開催されます。総会後に、ステージや屋台などがある催し物が開催されます。
・インターナショナルひのきしん隊は、2024 年 7 月 18 日～ 24 日に開催予定。
・教祖 140 年祭の年の 2026 年 7 月 18 日～ 24 日にもインターナショナルひのきしん隊の開催予定。

NY センター

・10 月 20 日から、 老木 Casey 氏（本島・キャピタル教会）さんが、3 ヶ月の予定でセンター青年づとめ。
・12 月 2 日 「天理な集い」開催

LA 婦人会総会　10 月 22 日

－信仰の喜びを分かち合おう！私の９０周年記念祭－
そして教祖１４０年祭へ向けて

教会や布教所にお連れし、真実（まこと）の喜びを分かち合う

シアトル地区では兼ねてより計画していた行事があったので、10 月まで待たず一足先にようぼく一斉活動を実施しました。

参加者は７名で、久しぶりに集った面々は、おぢばのビデオを見たり一緒に諭達を拝読したりしました。なりもの勉強は、最初はなかなか良い音色が出なかったのですが、何度も繰り返しているうちに勇んだいい音色と調子を奏でることが出来るようになり、とても気持ちよく勉強できました。

お昼の持ち寄りは賑やかに美味しくいただき、次回は人数を増やせるように声がけを頑張りたいと思います。

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE

TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God`s children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

"With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed. The mind alone is yours." Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.